中小エクセレントカンパニー

「バリ」取りに商機

日本省力機械

（産業機械製造、群馬県伊勢崎市）

1981年創業。従業員20人。売上高約5億円。自動車、電機関連のメーカーに製品を納入している。年内に海外への販路拡大を目指す。

プラスチック部品などの工作過程では、「バリ」と呼ばれる細かい出っ張りができる。製品に使う前にきれいに取り除く必要があり、その課題を超音波の技術で解決した。田中章夫社長(61)は「バリをいかに除去するかは製造業の永遠のテーマ。これで成功すれば生き残れる」と強調する。

かつては社名の通り、工場のラインを省力化するシステムを作っていた。景気悪化で業績が低迷した2000年ごろ、多くの需要が見込める「バリ取り機」の開発に軸足を移した。

試行錯誤の中、超音波の技術を使い、刃を超音波で振動させてバリの根元に当てると、切り粉を出さず切断面もきれいに保って除去できることがわかった。

「超音波を使ったカッターは、以前は紙や繊維しか切れなかった」（田中社長）というが、開発と検証の繰り返しで厚い樹脂の加工も可能になり、6年ほど前、超音波技術によるバリ取り機を商品化した。

田中社長は「エコカーは、車体を軽くするためプラスチック部品を多用するケースが増えており、我々の役割もさらに増える」と商機拡大を見込んでいる。

（前橋支局　武田潤）

経済ひと点描

経験豊富な国際派

東ソー　宇田川憲一　社

昨年6月に社長に就いた。米国でのM&A（合併・買収）やアジアでの生産拡大など多くの海外戦略を手がけてきた国際派だ。

1970年代には、三井物産などと共同で参加したイランでの大型化学コンビナート建設計画で現地へ派遣された。「生活習慣や文化の違う国でいかにコミュニケーションを取るか。自分から相手の懐に飛び込むことが大事だ」と数々の現場で学んだ。豊富な海外経験で、新興国向けビジネスの拡大などを目指す。

休日は読書でリラックスする。「ロバート・パーカーやジョン・

景気低迷で手応え

あきない総合研究所　吉田雅紀　社

経営コンサルティング会社を経営し、創業間もないベンチャー起業家を支援している。まずはオフィスを安く提供しようと、東京、大阪、横浜で計4か所のレンタルオフィスを運営。約300社が利用中で、増設を計画中だ。今年1月には「創業3年未満」のベンチャー企業を対象とする支援ファンドも設立した。

「大企業でも安泰とは言えなくなり、起業志望者が増えている」と、景気低迷で逆に支援ビジネスのニーズは拡大しているという。

多忙な中での息抜きは、趣味のバイク。旅行を兼ねて社員の実家